

【埼玉】無休診療の小児科「コンビニではなく町中華になりたい」-若林大樹・医療法人社団Sunny理事長に聞く◆Vol.3

埼玉高速鉄道全駅に授乳室を寄贈

2025年3月14日（金）配信 m3.com地域版

「地域と職員それぞれへの貢献を高めていこう」――。2020年に開業した医療法人社団Sunny（埼玉県川口市）の若林大樹理事長は現在、年中無休で診療する小児科クリニック4院を持つ。同様のクリニックは増えていると思われるが、「目指しているのはコンビニではなく、秘伝のたれを持つ各地域に溶け込んだ町中華のような存在」と若林氏。若手開業医が分院展開を図ってきた経緯と目指す法人像、埼玉高速鉄道の全駅に授乳室を寄贈するというユニークな地域貢献についても聞いた。（2025年1月24日オンラインインタビュー、計3回連載の3回目）

▼第1回はこちら

▼第2回はこちら



若林大樹氏（法人ホームページから引用）

3つの分院はターミナル駅から徒歩3分以内に立地

――医療法人社団Sunnyは埼玉県川口市とさいたま市、東京都府中市で計4つのクリニックを運営しています。分院展開を図ってきた経緯をお聞かせください。

2020年に戸塚安行院を開業してから患者さんが増えていき、予防接種が1カ月待ちになったり、患者さん宅が遠方であって通院に時間がかかったりするなど、ご家族の負担がかかるケースが増えたことがきっかけです。それで、本院のある川口市の北部だけでなく南部に分院を設けて連携していこうと、2023年に川口駅前院をオープンしました。さらに、2院から西に向かって中間に位置する場所に武蔵浦和院を2024年6月につくりました。

当法人のコンセプトである365日診療を継続していくには相応の数の医師・多職種が必要になるため、分院展開にあたっては職員が通勤しやすいよう、ターミナル駅からアクセスの良い場所にしたいと以前から考えていました。実際、分院は全て駅から徒歩3分以内の商業施設に入居しています。

――直近では2025年1月6日、府中院が開院しました。東京都にクリニックを設けたのはなぜですか。

当法人のコンセプトに共感し、営業日を増やすなど協力してくれていた本院の門前薬局と「他の場所でも地域に密着した形で365日診療をやりたいね」とずっと話していたんです。それで、府中駅前の商業施設に80～90坪の空きテ

ナントが見つかったから行ってみようという話になり、実現に向かっていきました。

武蔵浦和院を開院したのが2024年6月なので、府中にも開院するとなれば1年以内に2院のペースになります。自分の中では結構なチャレンジだったので思案しましたが、府中市には日曜祝日、年末年始などに診療している小児科がありませんでした。地域の医療というインフラを整え支える存在を担うことで、「地域貢献できる範囲を広げていこう」という思いのもと、挑戦することにしました。また調べてみると、府中駅の周辺には東京多摩地域有数の繁華街・市街地があり、クリニックが入居する商業施設の同じフロアには府中市が運営する子育て支援施設もあります。その施設では子育て相談や乳幼児健診を行っており、「うまくこのような施設と連携することで、良いシナジーを生み出せるのではないか」とも考えました。

クリニックのリーダーは経営を学んだ看護師と医療事務

——365日診療と分院展開によって多くの医師が診療するようになると、経営面でも工夫が必要になるのではないのでしょうか。

当法人では医師が診療に集中しやすいよう、医師以外の看護師や医療事務が「医院リーダー」としてクリニックの運営を取り仕切っています。組織構造としては、専門的に経営を学んだ医院リーダーがトップにいて、その下に「医師部門」「看護師部門」「事務部門」「病児保育部門」を据えています。医師部門のリーダーとして分院長が、看護師部門のリーダーに看護師リーダーがいて、これらを束ねるのが医院リーダーです。一般のお店という店長やマネジャーの立ち位置です。

私も勤務医のころは経営の素人だったので分かりませんが、医師だからといってすぐに経営や人事を采配できるかというところではありません。経営は職種によらず専門的に学んだ人が行った方が良いと私は考えており、私と医院リーダーは東京の小児科開業医の先生が設けている医療経営の講座を受講し、今もマネジメントやマーケティングのセミナーに参加するなどして自己研さんを続けています。

——若林先生が重視している地域貢献の面では、本院最寄りの戸塚安行駅が通る埼玉高速鉄道の全駅に授乳室を寄贈したことも挙げられます。

寄贈したのは、「mamaro（ママロ）」という個室型のベビーケアルームです。横浜市の企業「Trim」が開発したもので、2021年ごろにアウトレット施設にママロが置かれてあるのを見て、「これはいいな」と感じました。それから、Trimや鉄道会社の方と話し合いを重ね、2023年に埼玉高速鉄道の全7駅のそばに設置してもらいました。設置費と維持費は当法人が負担しており、地域の方は無料で使うことができます。病児保育室の運営と同様、子育てしやすい社会を目指した地域貢献の一環です。



寄贈した授乳室「mamaro」（法人ホームページから引用）

目指すは「小児科プライマリケアのパイオニア」

——最後に、今後の展望をお聞かせください。

短期間で3つの分院をつくりましたが、数をどんどん増やすつもりはありません。それよりも、4院それぞれが地域に密着して質の高い医療・看護・保育ができる環境を整えることが大切だと考えています。現在、都市部を中心に無休で診療するクリニックは増えていると思いますが、コンビニのようにはなりたくないですね。私たちは地域に根付いたお店、例えば、秘伝のたれを持っている町中華のような存在になりたいと考えています。そのために、他のクリニックがやっていないことを追求しています。

開業医のやりがい、スタッフと協力して大きなものを成し遂げていくこと。Sunnyを選んで働いてくれる職員が充実した人生を送れるために環境を整備しつつ、「小児科クリニックと言えばSunnyだよ」と地域から支持されるような存在、いわば、「首都圏での小児科プライマリケアのパイオニア」を目指していきたいです。そして、将来的には日本の大きな問題である少子化の解決にも関わりたい思いがあります。まずはクリニックがある地域でファンを増やし、「Sunnyがあるから安心して子育てができる」「もう一人子どもを迎えても大丈夫だね」と思ってくれる人を増やしたい。現在、当法人を見学したりクリニックで働いたりした上で開業する先生方が増えています。各地で私たちがモデルに地域貢献を果てしてくれるクリニックが増えていけば、将来的に少子化解決の一助になれる可能性も生まれてくるのではないのでしょうか。

◆若林 大樹（わかばやし・だいき）氏

2012年慶應義塾大学医学部卒。横浜州市市民病院での研修後、済生会宇都宮病院やSUBARU健康保険組合太田記念病院などに勤務。2020年にSunnyキッズクリニック戸塚安行院を開院。2025年1月までに埼玉県と東京都で4つの小児科クリニックを運営する。

【取材・文＝医療ライター 庄部勇太】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

